

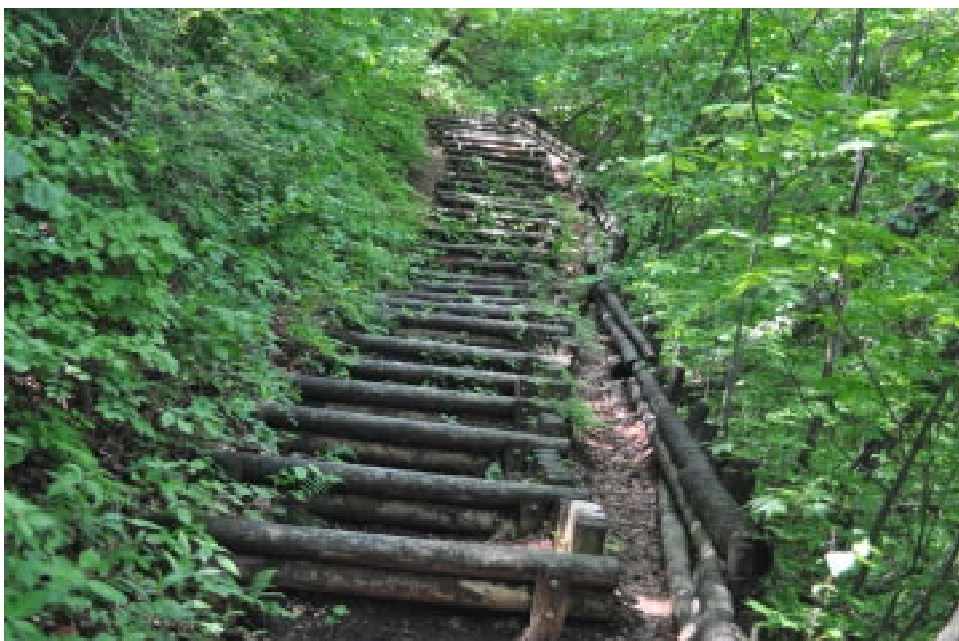




管理棟から数分でもみじ広場に着きます。岩に根を張ったもみじや天皇陛下の句碑、少し先にはシダの池風穴などがあります。

大正初期まで使われていた蒸し湯跡です。その後蒸気が出なくなり、建物のみが残っています。近くに風穴があります。

ここは三叉路になっていて、二ツ岳へは右へ進みます。



蒸し湯からの登山道です。このような木製の階段がしばらく続きます。けっこう足に効きますが、そう長い距離ではありません。

木製階段が終わると三叉路があります。雄岳、雌岳方面は右折です。

左にも行ってみたい誘惑を感じますが、きついのはこの後です。無難に右折します。

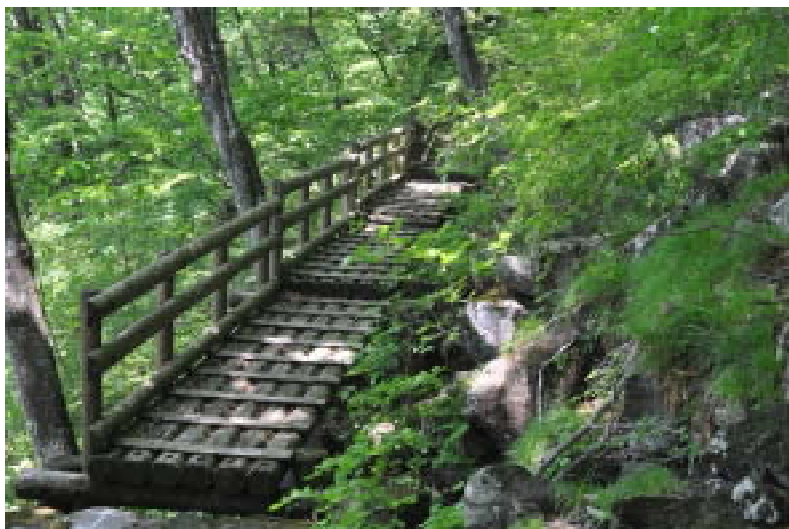


オンマ谷との分岐点を標識に従い右折します。オンマ谷は下りに、目指す山頂は登りになるのですぐに分かります。

ここから岩場の登山になりますが、階段状に整備されているので登りやすくなっています。

オンマ谷は爆裂火口と言われ低地となっていますが、榛名湖のように水はありません。この谷のコースは溶岩の中を歩きます。オンマ谷へは、ヤセオネ峠（旧有料道路料金所）から 500メートル先の駐車場まで車で入れるので便利です。歩き始めるとすぐに「まゆみ」の群生が見られます。オンマ谷の南に樹木の間から相馬岳の断崖が見えます。相馬岳付近にはツキノワグマが住んでいるという噂があります。

雄岳、雌岳の登山道に入るとすぐに、こんな洒落た渡り廊下のような登山道があります。





雌岳との分岐点を過ぎて少し下ると、ワシノ巣風穴からの登山道との分岐点があります。雄岳方面へは直進します。

ヤセオネ峠付近のオンマ谷駐車場からの登山道の出合いの地点です。雄岳へは右折で、溶岩がごろごろしていますが、やはり階段状に整備されています。



階段状の登山道を歩いていると、突然テレビ中継所の建物が目に飛び込んできます。深山幽谷の山中には不似合いで、興ざめな感じがします。

山頂は、写真正面のガレ場を右に登ります。

山頂は狭く、切り立った溶岩の間で樹木が育っています。

山頂からは西方のみ視界が開け、他は樹木が茂り見渡せません。



山頂から榛名湖方面の眺望です。

外輪山に囲まれた榛名湖周辺と榛名富士が箱庭のように望めます。



雌岳と雄岳の中間地点からの下山では「ワシノ巣風穴」に立ち寄ることをお勧めします。

榛名山一帯には風穴が随所にあります。この「わしの巣風穴」は蚕の卵の保存に使用したということです。この上の谷はあちこちに風穴があり、冷気に覆われ真夏でも寒いくらいで、登山で火照った体には最高です。

オンマ谷では溶岩地帯の登山道のいたる所に風穴があり、冷気の中でのハイキングになります。